

## 研究会案内

アジ研のアフリカ関連研究会を紹介します。

### ■ 「アフリカ農村における住民組織と市民社会」研究会 (主査：児玉由佳・地域研究センター)

本年度は2年研究会の2年目となる。4月の研究会では、主査より最終成果についての構想が示されたのち、今年度より新たに加わった武内進一委員(地域研究センター)からの報告を行った。7月の研究会では、本研究会の課題をより具体的に分析するための方法論として、「社会ネットワーク分析」をテーマに、野沢慎司氏、阪本公美子氏を外務講師としてお招きした。この夏には、児玉由佳(エチオピア)、高根務委員(ガーナ)、原島梓委員(マラウイ)が、現地調査を実施する。本研究会も今年度後半は各委員が最終報告執筆にとりかかることとなる。なお、昨年度作成した調査研究報告書は、アジ研ウェブサイトよりダウンロードできる。(児玉)

### ■ 「アフリカ経済の構造変化とそのダイナミズム」研究会 (主査：平野克己・地域研究センター)

昨年まで激動のアフリカにいた。企業活動に火がついていて、彼らが巨大資金を差配し、国々の経済動向を左右していた。また、先進国企業の間隙に中国や南アフリカ、ドバイ(UAE)、インドといった新興国の企業がひしめいていた。アフリカのリスクをとれるようになった企業群のプレゼンスは、政府の存在感を圧倒している。20年以上つきあってきたなかでこのようなアフリカを見るのは初めてだ。アフリカの“いま”を説明してほしいという要望は政官民すべてにおいて高いが、そのアフリカの姿が学界の目に届いていないと感じている。まずは腰を屈めて、1960年代からの世界開発史について考えている。いまや懐かしくさえある南北問題の時代だ。そこから、現在のアフリカをとらえ直す史観を作ろうと思う。そして資源大陸アフリカの経済像を再構成し、一冊の本に結実させたいのだが、研究室に沈潜して思考を溜める時間をどうやりくりするか。厚い業務

との戦いである。

(平野)

### ■ 「政治変動下の発展途上国の政党 地域横断的研究」研究会

(主査：佐藤章・地域研究センター)

地域横断的な枠組みの中で、発展途上国における政党ないし政党システムの様態を探ろうとする本研究会には、今年度は新たに、マレーシアを担当する委員(中村正志・地域研究センター)が加わった。これにより、昨年までのラテンアメリカ、中東、アフリカに加えて、アジアも視野に収めた陣容となり、今後の議論にさらに厚みが増すことが期待される。本年度はいよいよ、原稿をとりまとめる最終年度である。現在までのところ、各国の事例の検討を通じて、亀裂(宗教・民族・社会階級)との対応関係、制度的条件の影響(とりわけ選挙制度や、連邦制を含む地方の政治制度のあり方など)、個別の政党の役割・性格の変化とその要因、政党連合・ブロックの評価などに、鍵となる論点が集まりを見せ始めている。刺激的な成果を得られるよう、さらに議論を深めていきたい。(佐藤)

### ■ 「発展途上国における石油産業の政治経済学的分析」研究会

(主査：坂口安紀・地域研究センター)

第2年度に入り、昨年度末にとりまとめた調査研究報告書の原稿検討を行うとともに、研究対象としている各国石油産業のステークホルダーを图示する作業を試みた。原稿検討会では、「国家・市場」と「中央・地方」という二つのグループそれぞれの執筆者が相互にコメントし合い、記述内容の確認や論点の点検を行った。ステークホルダーの概念図は、対象国の石油産業の様相や構造を描き出すとともに、両グループの国々の比較対照に資するものである。すでに主査を中心に総論執筆をにらんだ作業を開始し、研究対象国のパフォーマンスの違いを的確に示すための方策を議論の中心に据えた。「国家・市場」と「中央・地方」という異なった行動原理をとる国々を、単一のマトリックスのなかに位置づけた

めの工夫が当面の焦点となっている。(望月)

■ 「国際価値連鎖のダイナミクスと東アジア企業の成長」研究会

(主査：川上桃子・新領域研究センター)

昨年度末に中間報告書を刊行した(M. Kawakami ed., *Repositioning Local Firms in Global Value Chains: Perspectives from East Asia and Africa*, アジ研ウェブサイトよりダウンロード可)。国際価値連鎖論(Global Value Chains)は、途上国企業の現状を静的に分析する際には有用である一方、技術的発展などの変化を分析する場合には不十分であることが示されている。今年度はその拡張方法について、各委員が考察を繰り返すことになる。アフリカでは、残念ながら多国籍企業の進出がローカル企業の技術に目覚ましい影響を与えている例は見られず、台湾や中国企業との差は非常に大きいことを痛感している。しかし、アジアの事例を知ることは、アフリカ企業が越えられない壁の向こう側を見るようで非常に刺激的だ。アジア企業がやすやすと壁を越える様には羨望の思いが、アフリカ企業との違いを探したいと思う。(福西)

■ 「国際安全保障における地域メカニズムの新展開」研究会

(主査：望月克哉・新領域研究センター)

地域主義や地域統合をめぐる議論が注目を集める中、近年、各地で安全保障分野における新たな制度化の動きも生じている。これは地域主義の新展開という一面をもち、かつ今日における地域概念の変容を物語っている。本研究では、こうした制度枠組みを地域メカニズムと称し、それらの仕組み、実現の経緯を明らかにするとともに、その可能性と限界を考察する。アフリカ、ラテンアメリカ、アジアほかの地域における、安全保障分野での制度化の動きをとらえ、そのメカニズムの検証を通じて、今後の展開について考える。各地域で実施され、あるいは実現が模索されている安全保障のための新たな制度枠組みを分析し、それらが提案されるに至った背景を押さえるとともに、その具体化までの経緯、さらに実施をめぐる問題点を明らかにする。これらの作業を通じて、地域大における取り組みという意味での国際安全保障における地域メカニズムの様相の把握

を当面の目標としている。(望月)

■ 「後発開発途上国における開発戦略」研究会  
(主査：山形辰史・新領域研究センター)

今年度から始まった研究会で、いまだに持続的な経済成長が見られていない貧困国の開発戦略を探ることが共通テーマである。2000年以降、開発援助政策は貧困削減に重点が置かれる一方で、貧困国の所得向上に関する議論は下火になっている。しかし、経済活動を通じた貧困層の所得水準の向上は、援助に頼らない長期的な貧困削減に不可欠である。本研究では、工業化、農村開発、労働政策、グローバルイゼーションなどの視点から開発戦略を考える。アフリカについては、福西隆弘が工業発展の可能性と貧困削減効果について、衣料産業を題材に考察する予定である。数年来、非資源セクターへの外国投資がアフリカでも増加しており、工業発展の下地ができつつある。こうした環境変化への企業の対応を計量的に分析し、アジア企業と比較したい。2009年度末に終了予定。(福西)

■ 「フェアトレードは貧困削減に結びつくのか」研究会  
(主査：佐藤寛・研究支援部)

本研究では、フェアトレードをWTOレジームなど世界経済の枠組みの中で検討しつつ、途上国の貧困地域での生産者をめぐる動き、そして先進国市場と消費者の視点から整理する。そして、フェアトレードは貧困削減に結びつくのか検討することを目的としている。研究会では、外部委員としてフェアトレードに携わるNGO関係者の参加を仰ぎ、またそれを開発援助のツールとするJICA等の実務者にも参加いただいている。研究会はセミオープンで、招待ベースでのオブザーバーも多く参加しており、活気のある研究会になっている。アフリカに関しては、大野敦委員(神戸国際大)がケニアの伝統産品のフェアトレードについて、また吉田栄一がマラウイの一村一品運動に焦点をあて検討していくことになっている。(吉田)

アフリカ連続フォーラム

下記の要領で「アフリカ連続フォーラム」を開催

致しました。

- 第1回 2008年3月12日(水) 14時~16時30分  
「アフリカの農村開発と小農 生計アプローチからの知見」(講師:高根務)  
「マラウイ小農の生計戦略」(講師:原島梓)
- 第2回 2008年3月28日(金) 14時~16時  
「国際経済とエチオピアのコーヒー フェアトレードの可能性と現実」(講師:児玉由佳)
- 第3回 2008年4月3日(木) 14時~16時  
「アパルトヘイト後の南アフリカ 『虹の国』は建設されたか」(講師:牧野久美子)
- 第4回 2008年4月7日(月) 14時~16時  
「アフリカの紛争と平和構築」(講師:武内進一)
- 第5回 2008年4月15日(火) 14時~16時  
「ケニア情勢をどうみるか」(講師:津田みわ)
- 第6回 2008年4月17日(木) 14時~16時  
「コートディヴォワールにおける紛争後の課題」(講師:佐藤章)
- 第7回 2008年5月16日(金) 13時30分~15時30分  
「大湖地域の戦争と平和 ルワンダとコンゴ民主共和国」(講師:武内進一)
- 第8回 2008年5月26日(月) 14時~16時  
「ナイジェリアの石油産業と地域紛争」(講師:望月克哉)
- 第9回 2008年6月5日(木) 14時~16時  
「激変するアフリカ経済を理解するために」(講師:平野克己)
- 第10回 2008年6月11日(水) 14時~16時  
「アフリカにおける一村一品運動の現状と課題」(講師:吉田栄一)
- 第11回 2008年6月17日(火) 14時~16時  
「アフリカの経済成長 外国直接投資を通じた技術の向上」(講師:福西隆弘)
- 第12回 2008年6月25日(水) 14時~16時  
パネルディスカッション「アフリカの現状と日本」(パネリスト:平野克己, 武内進一, 児玉由佳, 佐藤寛)

2008年3月から6月にかけて開催した「アフリカ連続フォーラム」は、アジ研のアフリカ研究者11名

が総出で連続講演を行うという、これまでに例を見ない試みであった。これは、TICADIV(第4回アフリカ開発会議)や北海道洞爺湖サミットを控えてアフリカへの関心が高まるなか、アジ研の研究蓄積をわかりやすく伝えたいと考えたためである。毎回多数の熱心な聴講者に恵まれ、社会的還元と対話のよい機会になったと思う。講演の内容をもとに、『アジ研ワールド・トレンド』誌11月号で「アフリカ開発の現在」と題する特集を企画している。(武内)

## 最近の仕事

アジ研研究員の最近の主な刊行物を紹介します。

■ 児玉由佳

(2008) 児玉由佳編『アフリカ農村の住民組織と市民社会』(調査研究報告書) アジア経済研究所。

(2008) 『市民社会』の概念の変遷と「開発」との関連 発展途上国への適用可能性を探る」上記編著所収, pp.1-23。

(2008) 「エチオピアにおける「市民社会」組織概観」上記編著所収, pp.162-179。

(2008) 「資料紹介: 多摩アフリカセンター編『アフリカン・ポップスの誘惑』』『アフリカレポート』No.46, p.43。

(2007) 「エチオピアのコーヒー生産者とフェアトレード コーヒー協同組合の事例から」重富真一編『グローバル化と途上国の小農』アジア経済研究所(研究双書No.561) pp.21-51。

(2007) 「貧困に左右される人生 アムハラ州の女性たち」岡倉登志編『エチオピアを知るための50章』明石書店, pp.16-20。

(2007) 「モカ・コーヒーのお味はいかが? 農業とグローバル化」上記編著所収, pp.276-281。

(2007) 「大きく変化しつつある援助環境」上記編著所収, pp.282-285。

(2007) 「資料紹介: ロバート・チェンバース著『開発の思想と行動 「責任ある豊かさ」のために』』『アフリカレポート』No.45, p.55。

(2007) 「資料紹介: 富永智津子・永原陽子編『新しいアフリカ史像を求めて 女性・ジェンダー・フェミニズム』』『アフリカレポート』No.45, p.55。

- 佐藤 章
- (2008)「新刊紹介：佐藤章編『統治者と国家 アフリカの個人支配再考』」『アジア研ワールド・トレンド』No.149, p.57。
- (2008)佐藤章編『政治変動下の発展途上国の政党 地域横断的研究』アジア経済研究所(調査研究報告書)
- (2008)「発展途上国における政党・政党システムの比較研究に向けて」上記編著所収(第1章)pp.9-18。
- (2008)「内戦期コートディヴォワール政治史年表(資料)」上記編著所収(第7章)pp.277-341。
- (2008)「資料紹介：佐藤章編『統治者と国家 アフリカの個人支配再考』」『アフリカレポート』No.46, p.45。
- (2008)「西アフリカの政治と紛争 コートディヴォワール内戦の事例から」池谷和信・武内進一・佐藤廉也編『朝倉世界地理講座12 アフリカⅡ』朝倉書店, pp.770-781。
- (2007)「移行期コートディヴォワールにおける政権運営の硬直化 産廃投棄事件へのバボ政権の対応から」『アフリカレポート』No.45, pp.38-43。
- (2007)「資料紹介：猪俣良樹著『黒いヴィーナス ジョセフィン・ベイカー 狂瀾の1920年代,パリ』」『アフリカレポート』No.45, p.58。
- (2007)佐藤章編『統治者と国家 アフリカの個人支配再考』アジア経済研究所(研究双書No.564)
- (2007)「いまなぜアフリカの統治者を研究するのか」上記編著所収(第1章)pp.3-45。
- (2007)「アフリカの統治者一覧」上記編著所収(巻末資料)pp.347-409。

- 武内進一
- (2008)『朝倉世界地理講座12 アフリカⅡ』(池谷和信・佐藤廉也と共編著)朝倉書店。
- (2008)「ルワンダの紛争と農村社会」上記共編著所収, pp.563-575。
- (2008)「コンゴ民主共和国の戦争と平和」上記共編著所収, pp.615-628。
- (2008)「ルワンダのジェノサイドを引き起こしたもの 歴史・国際関係・国家」『季刊 戦争責任研究』第59号, pp.11-17, 25。

- (2008)「書評：Scott Straus, *The Order of Genocide: Race, Power, and War in Rwanda*」『アジア経済』49(1) pp.88-92。
- (2008)「書誌情報の発達とアフリカ研究」『アジア研ワールド・トレンド』No.150, pp.32-33。
- (2008)「村から国家と経済をみる」山田肖子編著『アフリカのいまを知らう』岩波書店(岩波ジュニア新書)pp.62-79。
- (2008)「サブサハラが抱える『ガバンス』という問題」『週刊エコノミスト』5月13日号, p.77。
- (2008)「虐殺から和解へ ルワンダ」『外交フォーラム』239(6月号), pp.30-33。
- (2008)「『紛争と開発』研究とアフリカ」『経済セミナー』639(7月号), pp.42-45。
- (2007)「ルワンダのジェノサイドとハビヤリマナ体制」佐藤章編『統治者と国家 アフリカの個人支配再考』アジア経済研究所(研究双書No.564) pp.223-275。
- (2007)「アカズ人名録 ハビヤリマナ体制とルワンダの虐殺に関する資料」『アジア経済』48(9) pp.51-57。
- (2007)「ルワンダ紛争の主体は誰か」城山英明・石田勇治・遠藤乾編『紛争現場からの平和構築 国際刑事司法の役割と課題』東信堂, pp.34-41。
- (2007)「日本におけるアフリカ開発研究 日本アフリカ学会を中心に」アジア経済研究所ウェブサイト(「成長するアフリカ 日本と中国の視点」)([http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2007\\_03\\_03.html](http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2007_03_03.html)) (会議報告)

- 津田みわ
- (2008)「ケニアの政治変動と政党研究のために(資料)」佐藤章編『政治変動下の発展途上国の政党 地域横断的研究』アジア経済研究所(調査研究報告書) pp.233-276。
- (2008)「資料紹介：竹村景子著『スワヒリ語のしくみ』」『アフリカレポート』No.46, p.43。
- (2007)「個人名の『裏書きされた』新憲法草案 ケニアにおける憲法見直しプロセスの頓挫と権力抗争」佐藤章編『統治者と国家 アフリカの個人支配再考』アジア経済研究所(研究双書No.564) pp.85-126。

(2007)「アフリカの大統領選挙：変化の兆し」『AFRICA』(アフリカ協会)47(6) pp.14-17。

(2007)「ケニアの政党再編と第10回総選挙」『アフリカレポート』No.45, pp.25-30。

(2007)「資料紹介：石井洋子著『開発フロンティアの民族誌 東アフリカ・灌漑計画のなかに生きる人びと』」『アフリカレポート』No.45, p.54。

#### ■ 原島 梓

(2008)「マラウイにおける酪農産業の実態」児玉由佳編『アフリカ農村の住民組織と「市民社会」』アジア経済研究所(調査研究報告書)pp.111-127。

(2008)「資料紹介：島田周平著『日本地理学会 海外地域研究叢書6 現代アフリカ農村 変化を読む地域研究の試み』」『アフリカレポート』No.46, p.44。

(2008)「在来種を生産する小農 マラウイにおけるメイズの品種選択の実態」『アフリカ研究』No.72, pp.38-41。

(2007)「メイズ価格の変動が小農に及ぼす影響 なぜマラウイの小農はメイズを作付けるのか」『アフリカレポート』No.45, pp.20-24。

(2007)「資料紹介：池谷和信・佐藤廉也・武内進一編『朝倉世界地理講座11 アフリカⅠ』」『アフリカレポート』No.45, p.59。

(2007)「マラウイにおけるタバコ生産の自由化と小農」重富真一編『グローバル化と途上国の小農』アジア経済研究所(研究双書No.560)pp.147-168。

#### ■ 平野克己

(2008)「資源外交の主戦場と化するアフリカ：求められる実利ベースの戦略転換」『週刊エコノミスト』2月26日号。

(2008)「TICADⅣの焦点とは？」『アフリカレポート』No.46, pp.3-7。

(2008)「出遅れ目立つ日本のアフリカ外交」『公明』4月号。

(2008)「アフリカはどうすれば離陸できるのか」『フォーサイト』4月号。

(2008)「中国アフリカ資源攻勢の背景」時事通信Janet(ウェブサイト。旧『世界週報』)4月。

(2008)「変わるアフリカ 資源の呪いを克服する仕組みを」『東京新聞』2月27日付(サンデー版)。

(2008)「貧困の地アフリカでいまなにが起こっているか」『アジ研ワールド・トレンド』No.152。

(2008)「対話：なぜアフリカは貧しいままなのか？」『公研』No.538, 6月号。

(2008)「今を読み解く：視線集めるアフリカ経済」『日本経済新聞』6月8日付。

(2008)「低開発下の成長：アフリカ経済変容の構図」『経済セミナー』No.639, 7月号。

(2008)「戦略的な対アフリカ援助に向けて」『経済Trend』7月号。

(2008)「書評：大塚啓二郎・櫻井武司編『貧困と経済発展 アジアの経験とアフリカの現状』」『国際開発研究』Vol.17, No.1。

(2008)「雄弁と類稀な実務能力を武器にアフリカで孤軍奮闘した日本人」『フォーサイト』9月号。

(2007)「中国資源外交がアフリカを呑む」『週刊エコノミスト』12月25日号。

#### ■ 福西隆弘

(2008)(西浦昭雄氏と共著)「アフリカにおける産業政策の新課題 多国籍企業とローカル企業の連携」吉田栄一編『アフリカ開発援助の新課題 アフリカ開発会議TICADⅣと北海道洞爺湖サミット』アジア経済研究所(情勢分析レポートNo.10)pp.143-172。

(2008)“Learning Process in Kenyan Garment Industry: Has Technology Spilled over from FDI?” in M. Kawakami ed., *Relocating Local Firms in Global Value Chains: Perspectives from East Asia and Africa*, Institute of Developing Economies, March, pp.97-129.

(2008)「メード・イン・アフリカの実力」『エコノミスト』5月13日号, pp.78-79。

(2008)“Clothing Exports from sub-Saharan Africa: Impact on Poverty and Potential for Growth,” paper presented at World Bank ABCDE Conference Capetown, June.

(2007)(西浦昭雄氏と共著)「グローバル化の波に洗われるアフリカ衣料産業 製品、資本、技術の国際移動とローカル企業の対応」『アフリカレポート』No.45, pp.3-8。

(2007)“Has Low Productivity Constrained Competitiveness of African Firms?: Comparison of Firm Performances with Asian Firms,” IDE

■ 牧野久美子

(2008) "The Changing Nature of Employment and the Reform of Labor and Social Security Legislation in Post-Apartheid South Africa," IDE Discussion Paper Series No.140, March.

([http://www.ide.go.jp/English/Publish/Dp/pdf/140\\_Makino.pdf](http://www.ide.go.jp/English/Publish/Dp/pdf/140_Makino.pdf))

(2008)「資料紹介：松田クラセセンさやか著『モザンビーク解放闘争史 「統一」と「分裂」の起源を求めて』、『アフリカレポート』No.46, p.42。

(2008)「アパルトヘイトから「虹の国」へ？南アフリカの民主化と社会変革の現状」池谷和信・武内進一・佐藤廉也編『朝倉世界地理講座12 アフリカⅡ』朝倉書店, pp.672-680。

(2007)「南アフリカにおける非正規雇用の増加と労働法・社会保障制度改革」宇佐見耕一編『新興工業国における雇用と社会保障』アジア経済研究所(研究双書No.565)pp.147-181。

(2007) "Book Review: Jeremy Seekings and Nicoli Nattrass, *Class, Race and Inequality in South Africa*, New Haven and London: Yale University Press, 2005," *The Developing Economies*, 45(4) pp.509-512.

■ 望月克哉

(2008)「TICADプロセスの現段階」『アフリカレポート』No.46, pp.8-12。

(2008)「ナイジェリアの石油産業 歴史的展開と問題点」坂口安紀編『発展途上国における石油産業の政治経済学的分析 資料集』アジア経済研究所(調査研究報告書)pp.179-197。

(2008)「ヤムはのど越し」(カルチャー・ショック 日本人のみた外国)『アジ研ワールド・トレンド』No.153, p.45。

(2008)「財政運営を問われる資源大国 ナイジェリア」『外交フォーラム』239(6月), pp.40-43。

■ 吉田栄一

(2008) 吉田栄一編『アフリカ開発援助の新課題 アフリカ開発会議 TICADⅣ と北海道洞爺湖サミット』アジア経済研究所(情勢分析レポート No.10)

(2008)「序章 エグゼクティブサマリー」上記編著所収, pp.1-10。

(2008)「アフリカにおける地域開発の新課題 マラウイにおける地域開発行政と一村一品運動を例に」上記編著所収, pp.173-193。

(2008)「都市と国家 ウガンダ・カンバラの都市化と国家の対応」池谷和信・武内進一・佐藤廉也編『朝倉世界地理講座12 アフリカⅡ』朝倉書店, pp.629-639。

(2007)「ウガンダ HIVエイズとその政策的対応」萩原ほか編『世界の社会福祉年鑑 2007』旬報社, pp.433-447。

客員研究員紹介

Dr. Degefa Tolossa(エチオピア・アディスアベバ大学開発学部助教授)

[滞在期間] 2008年7月6日～10月5日

[調査課題]「都市部貧困者とその食料安全保障状況の現状を理解する アディスアベバ市の事例」

編集後記

ルワンダと南アフリカに短い旅をしてきた。どちらの国も、安易な評価を許さない。過去の傷を克服する理想と、人びとが直面する現実とは、一致することなく常に緊張を孕む。その双方をきちんと観察したいと改めて思う。(武内記)

アフリカレポート 第47号

アジア経済研究所  
独立行政法人日本貿易振興機構

編集 『アフリカレポート』編集委員会

発行 研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-mail: syuppan@ide.go.jp

2008年9月30日発行 © 定価735円(本体価格700円)